

## 政策評価（令和2年度）

政策評価調書

## 戦略4 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

幹事部局名	観光文化スポーツ部	評価者	企画振興部長	評価確定日	令和2年8月25日
-------	-----------	-----	--------	-------	-----------

## 1 政策の目標（目指す姿）

- 本県ならではの魅力が際立つ誘客コンテンツや、観光客のニーズに応える受入環境を充実し、本県が多くの観光客に選ばれることにより、国内外からの誘客を拡大させます。
- 県産食品のブランディングと販路の拡大を進め、特色ある食文化を旅の目的とする集客を拡大するなど、「食」がリードする秋田の活性化を図ります。
- 文化やスポーツによる国内外からの交流人口の拡大を図るとともに、本県の多彩な文化・芸術の継承や、本県スポーツの競技力向上などを進展させます。
- これら活発な交流の基盤となる道路や公共交通など、交通ネットワークの充実にに向けた取組を結実させ、本県の未来を創り・支える交流の一層の拡大を進めます。

## 2 政策を取り巻く社会経済情勢

- 平成26年10月 ・ 「第29回国民文化祭・あきた2014」を開催した。
- 平成27年10月 ・ 日沿道「象潟IC～金浦IC」間が供用された。
- 平成27年10月 ・ 「地域伝統芸能全国大会～日本の祭りinあきた2015～」が開催された。
- 平成28年1月 ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウンに県及び美郷町が選定登録された。（以後、横手市、秋田市、大館市、仙北市、鹿角市、大潟村及び能代市が順次登録）
- 平成28年3月 ・ 北海道新幹線が新函館北斗まで開通した。
- 平成28年10月 ・ 日沿道「鷹巣IC～二井田真中IC」間が供用された。
- 平成29年1月 ・ 秋田市とともに「県・市連携文化施設に関する整備計画」を策定した。
- 平成29年7月 ・ 平成33年第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会の秋田県鹿角市での開催が決定した。
- 平成29年11月 ・ 平成32年第28回日・韓・中ジュニア交流競技会の秋田県開催が決定した。
- 平成30年3月 ・ 日沿道「大館能代空港IC～鷹巣IC」間が供用された。
- 平成30年5月 ・ 秋田県民会館が閉館した。
- 平成30年10月 ・ 「新・秋田の行事in仙北2018」が開催された。（2016年大館市、2017年大仙市に続いて3度目の開催）
- 平成31年2月 ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックの公認文化オリンピアードである「東京キャラバンin秋田」が開催された。
- 平成31年3月 ・ 秋田空港に台湾定期チャーター便が就航した。
- 平成31年4月 ・ 令和3年に「東北デスティネーションキャンペーン」の開催が決定した。
- 令和元年7月 ・ 秋田市とともにあきた芸術劇場の建設に着手した。
- 令和2年2月 ・ 「2020 FIS フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」が開催された。（平成27年から6年連続開催）
- 令和2年3月 ・ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、東京2020オリンピック・パラリンピックの延期が決定した。
- 令和2年5月 ・ 羽田発着枠政策コンテストの結果、令和2年冬ダイヤから、大館能代空港・羽田空港（1日2便運航）に新たに1便が配分されることが決定した。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により、第28回日・韓・中ジュニア交流協議会秋田大会の中止が決定した。

## 3 政策を構成する施策の推進状況

## 3-1 施策評価の結果

施策	施策評価の結果			
	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)
施策4-1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	B	B	—	—
施策4-2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	B	B	—	—
施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	B	B	—	—
施策4-4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	C	C	—	—
施策4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備	A	A	—	—
施策4-6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	B	B	—	—

※施策評価の結果:「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階で判定した結果

### 3-2 施策評価の概要

#### 【施策4-1】 地域力を結集した「総合的な誘客力」の強化

- 代表指標の達成状況については、①「観光地点等入込客数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、平成30年実績値は34,484千人で令和元年目標値（33,500千人）の102.9%の水準に達している。また、令和元年のゴールデンウィーク中の主要温泉郷及び宿泊施設における1日当たりの観光入込客数は、前年比で15.8%増加していることに加え、首都圏等をターゲットとしたプロモーションの展開による国内旅行者の増加等により成果指標・業績指標①「延べ宿泊者数」が過去5年で最多となった。
- 成果・業績指標②「外国人延べ宿泊者数」は、前年比+15,970人泊（+12.9%）となったものの、海外からのチャーター便数の減少等が影響し、目標値を下回るとともに、東北（+25.7%）や全国平均（+22.7%）と比較して低い伸び率にとどまっている。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

#### 【施策4-2】 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

- 代表指標の達成状況については、①「食料品・飲料等製造品出荷額等」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、平成30年速報値は1,347億円で令和元年目標値（1,280億円）の105.2%の水準に達している。また、県内蔵元に対する高品質な清酒づくりへの転換に資する設備導入支援などが功を奏し、清酒課税移出数量に占める特定名称酒の割合が上昇している（令和元年度：47.0%（対前年度比+1.2ポイント））こともあり、令和元年の増加も期待できる。
- 「あきた発酵ツーリズム」については、クルーズ船寄港回数の増加も相まって拠点施設への来場者数は増加している反面、拠点施設やその周辺の観光コンテンツを組み合わせさせたツアーの造成がまだまだ低位にとどまっている。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

#### 【施策4-3】 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

- 代表指標の達成状況については、①「文化事業への来場者数」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

#### 【施策4-4】 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

- 代表指標の達成状況については、①「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は「c」判定であり、定量的評価は「C」。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「C」とする。

#### 【施策4-5】 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

- 代表指標の達成状況については、①「県内高速道路の供用率」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

#### 【施策4-6】 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

- 代表指標の達成状況については、①「秋田県と県外間の旅客輸送人員数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、北陸地方や西日本の旅行会社への旅行商品造成の働きかけや、航空会社と連携した乗継利用のPR活動等により、新型コロナウイルス感染症の影響が生ずる前の令和2年2月までの秋田空港及び大館能代空港の利用者数は、前年度を上回っていた。
- 乗合バス路線については、事業者及び市町村に対する運行費助成や路線再編への支援、地域の関係者が一体となった利用促進に向けた取組などにより必要な路線が確保されている。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

#### 4 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施策評価の結果は、「A」1施策、「B」4施策、「C」1施策（施策の評価結果の平均点は3.00）であり、政策の定量的評価は「B」</li> <li>■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。</li> </ul>

- 定量的評価：施策評価結果を点数化して平均点を算出し、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。
  - ・ 施策評価結果の配点 「A」:4点、「B」:3点、「C」:2点、「D」:1点、「E」:0点
  - ・ 判定基準(平均点) 「A」:4点、「B」:3点以上4点未満、「C」:2点以上3点未満、「D」:1点以上2点未満、「E」:1点未満
- 定性的評価：施策の推進状況等から判定する。
- 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

#### 5 県民意識調査の結果

満足度 質問文		評価年度(R1)の満足度(割合%)						3期プラン(4年間)の満足度(平均点)			
		十分 (5点)	おおむね 十分 (4点)	ふつう (3点)	やや 不十分 (2点)	不十分 (1点)	わからない ・ 無回答	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)
施策 4-1	国内外から観光誘客が進んでいる。	1.5	11.4	35.2	20.6	16.1	15.2	2.75	2.55		
施策 4-2	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	3.8	23.6	42.4	10.6	4.2	15.3	3.11	3.14		
施策 4-3	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.5	14.5	40.6	18.9	9.4	14.1	2.81	2.79		
施策 4-4	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気もたらされている。	3.3	16.4	45.0	15.8	7.4	12.2	2.95	2.91		
施策 4-5	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	2.0	14.4	43.7	17.7	10.1	12.2	2.69	2.78		
施策 4-6	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	1.6	9.7	39.8	21.8	16.4	10.8	2.41	2.53		

##### 調査結果の認識、取組に関する意見等

- 各施策に関する質問の5段階評価による満足度の平均点は「2.53」～「3.14」であり、施策4-2(3.14)に関する質問を除いて「ふつう」の3より低かった。施策4-2の質問に対する満足度が最も高く(3.14)、施策4-6が最も低い(2.53)結果となった。  
回答では、全ての質問で「ふつう」が最も多かった。
- 「不十分」又は「やや不十分」を選んだ理由や県に求める取組として、満足度の平均点が低かった施策4-1に関する質問については、通過点的な観光地が多く滞在型の観光に結び付いていないなどの意見があった。  
同様に施策4-6に関する質問では、公共交通機関の本数が少なく不便であるなどの意見があった。

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

## 6 課題と今後の対応方針

施策	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
4-1	<p>○ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、県内観光産業は観光客の急激な減少や旅行者の観光に対する意識の変化への対応を迫られるなど、大きな影響を受けている。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.55と2番目に低く、通過点的な観光地が多く滞在型の観光に結び付いていないなどの意見があった。</p> <p>など</p>	<p>○ 新型コロナウイルスの収束状況を見極めながら、県内・東北・全国に向けた誘客を展開し、アフターコロナに対応する受入態勢の整備や地域の観光コンテンツの発掘・磨き上げを行い、令和3年4月からの東北DCに向けた誘客につなげていく。</p> <p>● 本県ならではの秋田犬とのふれあいや発酵食文化、祭りや郷土芸能などのキラーコンテンツに加え、周辺の体験型等の観光コンテンツを組み合わせた周遊ルートの形成を図る。</p> <p>など</p>
4-2	<p>○ 「あきた発酵ツーリズム」の体験型観光コンテンツは徐々に整備されつつあるが、旅行商品の造成が低位にとどまっている。</p> <p>など</p>	<p>○ 秋田ならではの発酵食文化を体験できる拠点施設の整備を引き続き推進するとともに、「あきた発酵ツーリズム」の更なる旅行商品化を目指し、旅行会社へ売り込みを図る。</p> <p>など</p>
4-3	<p>○ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした本県ならではの文化の発信が十分に進んでいない。</p> <p>など</p>	<p>○ 新型コロナウイルスの影響により大規模な公演等が開催できない芸術文化事業について、無観客公演の開催とその模様を撮影した動画制作・配信に対して支援を行うなど、新たな手法による本県文化の国内外への発信を進める。</p> <p>など</p>
4-4	<p>○ ビジネスパーソンや子育て世代が気軽に運動できる機会が不足しているほか、子供や若者がスポーツに親しむことができる場が少ない。</p> <p>など</p>	<p>○ 健康経営を考える事業所等への指導者の派遣や、県内トップスポーツチームと連携した親子運動教室の開催等に取り組むほか、総合型地域スポーツクラブによる様々な年代向けのプログラムの設定を支援する。</p> <p>など</p>
4-5	<p>○ 高速道路の開通見通しが一部公表されていない区間があり、企業誘致や物流、観光振興等への影響が危惧される。</p> <p>など</p>	<p>○ 関係機関との連携を強化し、高速道路の開通見通しについて、未公表区間を早期に公表するよう国に対して要望していく。</p> <p>など</p>
4-6	<p>○ 人口減少や運転手不足の影響等により、住民生活の基盤となる地域公共交通の維持確保が年々困難になっている。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.53と最も低く、公共交通機関の本数が少なく不便であるなどの意見があった。</p> <p>など</p>	<p>○ 地域の実情を踏まえ、路線バスやコミュニティ交通のほか、住民が主体となる自家用有償運送など様々な交通モードを組み合わせ、持続可能な地域交通の形成に取り組む。</p> <p>● 人口減少や少子高齢化などの影響を受けて、地域の公共交通は厳しい状況に置かれているが、このような地域の公共交通の維持・確保を図るため、国や市町村とも連携して継続的に事業者への支援等を行う。</p> <p>など</p>

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調書を参照

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

## 7 政策評価委員会の意見

自己評価の「B」をもって妥当とする。
--------------------